

改訂箇所一覧

骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2011年版 第1版第2刷

	旧(第1刷 2011年12月20日)	改訂(第2刷 2012年3月30日)												
2頁 表1 WHOの骨密度による診断 カテゴリー	<p>正常 骨密度値が若年成人の平均値の-1SD(標準 偏差)以上。(Tスコア ≥ -1)</p> <p>低骨量状態(骨減少) 骨密度値がTスコアで-1より小さく-2.5 より大きい。($-1 \geq$ Tスコア > -2.5)</p>	<p>正常 骨密度値が若年成人の平均値の-1SD(標準 偏差)以上(Tスコア ≥ -1)。</p> <p>低骨量状態(骨減少) 骨密度値がTスコアで-1より小さく-2.5よ り大きい($-1 >$ Tスコア > -2.5)。</p>												
12頁 図8 原発性骨粗鬆症の診断手順	<p>骨密度がYAMの80%以上かつX線像で骨粗 鬆化の疑いなし</p> <p>骨密度値がYAMの70%以上および80%未満 またはX線像で骨粗鬆化の疑いあり</p>	<p>骨密度がYAMの80%以上かつX線像で骨粗 鬆化なし</p> <p>骨密度値がYAMの70%以上80%未満 またはX線像で骨粗鬆化の疑いあり</p>												
70頁 右段の上から10行目	<p>「～議論の対象とはしない。わが国における アレンドロネートの臨床第Ⅲ相試験³⁷⁷⁾で はカルシウム薬を補充することなく、アレ ンドロネート投与群と活性型ビタミンD₃ 薬投与群で骨折発生率を比較した。結果的 にアレンドロネート投与群はカルシウム薬 や天然型ビタミンD薬を投与せずとも、活 性型ビタミンD₃薬投与群よりも骨折発生 率が低かった。したがって、少なくともビス ホスホネート薬では、カルシウム薬やビタ ミンD薬を併用しなくても活性型ビタミン D₃薬より強い骨折抑制作用を発揮しうる。 しかし、最近終了した～」</p>	<p>「～議論の対象とはしない。最近終了した～」</p> <p>※左の網掛け部分削除</p>												
78頁 右段の下から12行目	<p>「～アルファカルシドールとのRCTが実施 され、3年間経過観察された。椎体骨折につ いては、アルファカルシドールに対して26 %の有意な発生抑制が認められ、優越性が 検証された。その結果、エルデカルシトール 投与群はアルファカルシドール投与群に比 して26%の有意な新規椎体骨折の発生抑制 を認めた^{452,453)}。</p>	<p>「～アルファカルシドールとのRCTが実施 され、3年間経過観察された。椎体骨折につ いては、アルファカルシドールに対して26 %の有意な発生抑制が認められ、<u>優越性が 検証された</u>^{452,453)}。</p> <p>※左の網掛け部分削除</p>												
78頁 右段の下から2行目	<p>「～前腕骨においてはプラセボ群に対して 71%の発生抑制が確認されている。」</p>	<p>「～前腕骨においてはアルファカルシドール 投与群に対して71%の発生抑制が確認されて いる。」</p>												
87頁 表43 「骨密度」の文献番号	<p>470 (164/83) 495 (90/80) 150 (カルシトリオールとの併用47/単独44)</p>	<p><u>495</u> (164/83) <u>150</u> (90/80) <u>496</u> (カルシトリオールとの併用47/単独44)</p>												
87頁 表43 「骨折(大腿骨近位部)」の 成績とエビデンスレベル	<table border="1"> <tr> <td>リスク55%低下(異質性$p=0.98$)</td> <td>I</td> </tr> <tr> <td>リスク40%低下(一次予防は有意差なし)</td> <td>I</td> </tr> <tr> <td>リスク53%低下, 絶対リスク1%低下</td> <td></td> </tr> </table>	リスク55%低下(異質性 $p=0.98$)	I	リスク40%低下(一次予防は有意差なし)	I	リスク53%低下, 絶対リスク1%低下		<table border="1"> <tr> <td>リスク55%低下</td> <td>I</td> </tr> <tr> <td>リスク40%低下(一次予防は有意差なし)</td> <td>I</td> </tr> <tr> <td>リスク53%低下, 絶対リスク1%低下</td> <td></td> </tr> </table>	リスク55%低下	I	リスク40%低下(一次予防は有意差なし)	I	リスク53%低下, 絶対リスク1%低下	
リスク55%低下(異質性 $p=0.98$)	I													
リスク40%低下(一次予防は有意差なし)	I													
リスク53%低下, 絶対リスク1%低下														
リスク55%低下	I													
リスク40%低下(一次予防は有意差なし)	I													
リスク53%低下, 絶対リスク1%低下														
87頁 表43 「骨折(男性)」の成績	<p>椎体骨折リスク<u>89%低下</u>, 腰椎骨密度2.8～ <u>3.7%上昇</u></p>	<p>椎体骨折リスク<u>56%低下</u></p>												